ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	保育科　准教授 川　上　英　明　（かわかみ　ひであき） KAWAKAMI Hideaki
所属	保　育　科
学位	博士（教育学）（東京大学）
資格・免許	小学校教諭一種免許状
学歴・職歴	＜学歴＞ 2016 年３月　宮城教育大学教育学部初等教育教員養成課程言語・社会系 社会コース　卒業（学士（教育学）） 2018 年３月　東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース修士課程　修了（修士（教育学）） 2022 年１月　東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻 基礎教育学コース博士課程　修了（博士（教育学）） ＜職歴＞ 2018 年４月　国際ティビィシィ小山看護専門学校 兼任講師（～2019 年 3 月） 2020 年４月　横浜保育福祉専門学校 兼任講師（～2021 年 3 月） 2021 年４月　山梨学院短期大学保育科 専任講師（～2023 年 3 月） 2021 年４月　山梨学院大学健康栄養学部 兼任講師（現在に至る） 2023 年４月　山梨学院短期大学保育科 准教授（現在に至る）
担当科目	教育原理　道徳教育の理論と方法　教育職論　現代文化論　地域学校経営論 教育哲学　教育学特論　道徳教育特論　家庭問題特論Ⅱ（分担） 基礎演習　卒業演習Ⅰ　卒業演習Ⅱ　修了研究 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育所）　小学校教育実習指導 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）　小学校教育実習Ⅰ・Ⅱ　現場研修Ⅰ 道徳教育指導論（山梨学院大学健康栄養学部）
専門分野	教育哲学・教育思想史
現在の研究テーマ	・京都学派の哲学と教育学に関する思想史研究 ・金子文子のアナキズムと教育思想
競争的資金等の研究課題	・「京都学派教育学」における教育と政治の関係をめぐる思想史的研究（日本学術振興会科学研究費助成事業　若手研究　2023 年４月～2028 年３月） ・「種の論理」から「市民主義」の教育思想へ―田邊元と久野収の教育論に着目して（日本学術振興会科学研究費助成事業　研究活動スタート支援　2021 年８月～2023 年３月）
所属学会	日本教育学会　教育哲学会　教育思想史学会　実存思想協会 ハイデガー・フォーラム
メッセージ	保育の実践知と原理的な知とをつなげる、生きた知識の獲得を目指してください。また、保育者・教育者である以前に、一人の市民として、教養を身につけ、自ら判断し、問題を解決する姿勢を持つことを期待します。

<table>
<tr><td colspan="3">教育</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022年４月～2023年３月</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育方針</td><td>・広い社会性と深い臨床性をあわせもつ保育者・教育者の養成
・自律的に考え責任をもった判断と協調的な行動ができる社会人の育成</td></tr>
<tr><td rowspan="2">授業</td><td>授業の工夫</td><td>＜教育原理＞
「教育とは何か」「教育はいかなる営みなのか」という原理的な問いから、教育格差、教員の働き方、LGBTQの子どもとの関わりなどの実践的な問題までを扱い、学生が教育の原理的な考え方に入門できるように心がけた。授業終了後に毎時間、小レポートを課し、それに対する回答を次回授業の冒頭で行うことで、卒業必修で受講生が多い講義であるにもかかわらず、双方向的なやり取りができるように工夫した。
＜教育職論＞
小学校教諭という職業に関する基本的な知識から、教師に関する社会問題や哲学的な議論まで、幅広く紹介するように心がけた。なお、哲学的な議論については、補助教材として映像資料を活用し、理解を深めさせるように工夫した。
＜現代文化論＞
現代文化を対象とした哲学的・社会史的な考察や批評を行う講義形式の授業の他に、受講生が自らプレゼンテーションをする機会を設けた。そうすることで、自身が関心を持つ事柄について、どのようにして他者に情報を伝えればよいのかということを考えさせるように心がけた。
＜教育哲学＞
哲学に触れる機会が少ない学生も取り組みやすいように、授業では、「哲学ウォーク」や、「哲学対話」（子どもの哲学：philosophy for children, p4c）の手法を取り入れた。また、グループでのプレゼンテーションを課し、「プラトンの洞窟の比喩」「デューイの経験主義」「ホイジンガとカイヨワの遊び論」などのテーマについて調査し発表するアクティブ・ラーニングを取り入れた。
＜教育学特論＞
京都学派の教育学をテーマに、毎回一名の教育思想家を取り上げ、その思想の背景や内容を概説した。あえて教育（哲）学という学問的な概念や思考に触れることで、自らの保育・教育実践を客観的に振り返る機会になることを心がけた。講義資料は、A4用紙４ページまでの分量に抑え、各思想家の思想のエッセンスを、具体的な場面も想定して解説した。</td></tr>
<tr><td>授業改善のための取組</td><td>講義内で最新の情報を紹介できるように、書籍やソーシャルメディアを通した情報収集に努めている。また、学会や講演会に参加することで、学術的な動向を押さえるようにしている。(2022年度に参加したもの：日本教育学会第81回大会、教育哲学会第65回大会、教育思想史学会第32回大会、実存思想協会第38回大会など)</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">教育（つづき）</td></tr>
<tr><td colspan="3">2022 年４月～2023 年３月（つづき）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ゼミ</td><td>ゼミ活動
（卒業演習）
（修了研究）</td><td>＜卒業演習Ⅰ＞
鶴見俊輔『教育再定義への試み』（岩波書店、2010 年）を輪読した。輪読に際しては、担当箇所の要約とコメントを付したレジュメを作成・配布させることで、文献講読の基礎を経験させた。また、「子どもの哲学（p4c）」の実践を行い、哲学対話を体験させた。
＜卒業演習Ⅱ＞
前期は学生の提案により、ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（新潮文庫、2021 年）を輪読した。輪読の際にはレジュメを作成させた。また、前期のうちに卒業レポートのテーマを構想させ、後期からの執筆に向けた準備をさせた。後期は、各自の研究テーマについての先行研究の収集・調査や、調査方法の検討、執筆に際する注意事項などを、基本的には個別に指導した。
＜修了研究＞
１年間を通して、研究テーマの焦点化、先行研究の収集と分析、アンケート調査やインタビュー調査の項目の検討、実践記録の方法の検討、修了論文の構成の検討などを、基本的には個別に指導した。なお、適宜、他のゼミとの合同検討会を行い、幅広い視野からの意見交換や指導を行うことで、よりよい修了研究が実施できるような体制を構築した。</td></tr>
<tr><td>卒業レポート・
修了研究テーマ</td><td>＜卒業レポートテーマ＞
・デジタル機器が乳幼児に与える影響のメリットとデメリット
・「伝承遊び」としての「おにごっこ」の遊び方の変遷
―インタビュー調査を通して―
・虐待による子どもの脳の傷―親の何気ない一言の重要性―
・「役を生きる」俳優たち
―菅田将暉と平手友梨奈の役作りに着目して―
・テレビから動画共有サイトへ―広告の手法の変化に着目して―
・疲れない子育てをするための支援
―ワンオペ育児の現状に対する一考察―
・ジークムント・フロイトの精神分析学における心的外傷の含意
―幼児期における外傷体験の影響を知るために―
・山梨県における水子供養の成り立ち
・「スマホ育児」の条件―保育科学生へのアンケート調査を通して―
・防弾少年団の魅力―世界に伝えようとしてきたメッセージ―
・ダウン症児とその家族への支援の方法について
・『シビル・ウォー／キャプテン・アメリカ』における“正義”対“正義”
―主体性を育む保育のために―
・『ドラえもん』が幼児に与える影響―のび太の優しさに着目して―
＜修了研究テーマ＞
・『となりのトトロ』が持つ幼児教育の教材としての可能性
―子どもと自然の関わりに着目して―
・ジェンダーの多様性に対する幼児の理解における絵本の効用
―『ピンクはおとこのこのいろ』の読み聞かせの分析を通して―</td></tr>
</table>

教育（つづき）	
2022 年４月～2023 年３月（つづき）	
課外活動	2022 年４月　短大バスケットボール部　顧問
2022 年３月以前	
主な教育業績	―

研究		
2022 年４月～2023 年３月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文）査読付き 久野収における〈教育と政治〉をめぐる問題構制―彼の道徳教育論とその特質に着目して― （単著）	2023 年　３月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第 43 巻
（その他：書評） 田中毎実著『啓蒙と教育――臨床的人間形成論から』 （単著）	2022 年　９月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第 31 号（168-171 頁） （学会依頼）
（その他：学会発表（口頭）） 種の論理から市民主義の教育思想へ―久野収による田邊元への批判に着目して― （単独）	2022 年 10 月	教育哲学会第 65 回大会 （於：慶應義塾大学）
（その他：学会発表（口頭）） 市民主義の教育思想―久野収における教育と個人主義の交叉― （単独）	2022 年　８月	日本教育学会第 81 回大会 （於：オンライン、会場校：広島大学）
（その他：受賞） 第 19 回教育思想史学会奨励賞 （単独）	2022 年　９月	教育思想史学会第 32 回大会 （於：同志社大学） 論文「田邊元と森昭の経験主義批判における認識論の問題―京都学派教育学における「行為的自覚」の系譜」に対して―

研究（つづき）		
2022 年３月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文）査読付き 大正生命主義の思想圏における木下竹次の合科学習－「総合的な学習／探究の時間」の思想史のために－ （単著）	2022 年　３月	『山梨学院短期大学研究紀要』 第 42 巻（31-42 頁）
（学術論文） 京都学派の緊張と教育学への越境 －田邊元の哲学と森昭の教育思想－ （単著）	2022 年　１月	東京大学（博士論文）
（学術論文）査読付き 田邊元と森昭における偶然性の問題－戦後教育学の発達論に伴う必然性を相対化するために－ （単著）	2021 年 12 月	日本教育学会『教育学研究』 第 88 巻第４号（610-621 頁）
（学術論文）査読付き 田邊元と森昭の経験主義批判における認識論の問題－京都学派教育学における「行為的自覚」の系譜－ （単著）	2021 年　９月	教育思想史学会『近代教育フォーラム』第 30 号（147-157 頁）
（学術論文）査読付き 他者の人格の手段化に抗する道徳教育－森昭によるカント解釈の特質と「種の論理」受容の問題－ （単著）	2021 年　７月	東京大学大学院教育学研究科　基礎教育学研究室『研究室紀要』 第 47 号（53-63 頁）
（学術論文） 道徳教育における評価の問題と他者の位置付けを考える－ジュディス・バトラーの「説明」概念に着目して－ （共著）	2021 年　５月	『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化・効果検証センター研究紀要』第６号（36-51 頁） （西村文吾・樋口大夢・川上英明・中森千裕・田邉尚樹）
（学術論文）査読付き 森昭における社会性と個体性をめぐる問題構制－田邊元のハイデガー批判との関連性－ （単著）	2020 年 11 月	教育哲学会『教育哲学研究』 第 122 号（1-19 頁）

研究（つづき）		
2022年３月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文）査読付き 人間生成の歴史性と自然性－京都学派の思想圏における森昭のハイデガー解釈－ （単著）	2020年　９月	日本教育学会『教育学研究』 第87巻第３号（367-378頁）
（学術論文） A Philosophical Study on Evidence-based Education and ”Subjectification”：Exploring a New Conception of Citizenship Education in an Age of Measurement （共著）	2020年　３月	『東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化･効果検証センター研究紀要』第５号（34-42頁） （Hideaki Kawakami, So Fujieda, Naoki Tanabe, Hiromu Higuchi, and Yu Iwase）
（学術論文）査読付き 現代教育学における実証主義の問題－マルティン・ハイデガーの実在論批判を手がかりに－ （単著）	2019年　７月	東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第45号 （117-124頁）
（学術論文）査読付き コンセンサスと沈黙の間における言語活動－ジャック・ランシエールの教育論における二つの愚鈍化からの解放の論理－ （単著）	2018年　７月	東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第44号 （49-58頁）
（学術論文） 教育実践における真理の意味－アーレントによるハイデガー真理論の受容と批判を手がかりに－ （単著）	2018年　３月	東京大学大学院教育学研究科『東京大学大学院教育学研究科紀要』第57号 （327-335頁）
（学術論文）査読付き 子どもの哲学（p4c）における活動的あるいは事実的生－初期ハイデガーとアーレントにおけるロゴスに着目して－ （単著）	2017年　７月	東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室『研究室紀要』第43号 （131-140頁）
（その他：学会発表） 成りつつある教師－戦後初期における森昭の教師論と田邊元の懺悔道－ （単独）	2021年　８月	日本教育学会第80回大会 （於：オンライン、会場校：筑波大学）

研究（つづき）		
2022年３月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（その他：学会発表） 晩年の森昭における教育目的への問い （単独）	2020年10月	教育哲学会第63回大会 （於：オンライン、会場校：日本大学）
（その他：学会発表） 森昭と「特設道徳」論争ーカント解釈に着目してー （単独）	2020年　８月	日本教育学会第79回大会 （於：オンライン、会場校：神戸大学）
（その他：学会発表） 森昭における「世界内存在」についてー田邊元のハイデガー解釈との関連性ー （単独）	2019年10月	教育哲学会第62回大会 （於：広島大学）
（その他：学会発表（ポスター）） ピア・レビュー付き The Tension Between Individuality and Sociality in the Philosophy of Education: Focusing on the Concept of Being-in-the-World in Martin Heidegger and Akira Mori （単独）	2019年　８月	World Education Research Association (WERA), 10th Focal Meeting (at Gakushuin University)
社会貢献 産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等		
2022年４月～2023年３月		
2023年　２月　山梨学院短期大学地域連携研究センター公開講座（第11回）　講師		
2022年３月以前（主なもの）		
2018年11月　教育思想史学会第10期事務局 幹事（～2021年３月）		
受賞　※個人、所属団体		
2022年　９月　第19回教育思想史学会奨励賞 受賞（個人）		